

編 集 後 記

埼玉県環境科学国際センター報は、県民並びに関係諸機関にセンターの活動を紹介するための情報源としてだけでなく、環境情報の収集・発信のための媒体としての役割がある。センターは平成12年4月に活動を開始しており、本報(第19号)は、19年度目に当たる平成30年度の活動を記録したものである。

昨年、サクラの外来害虫、クビアカツヤカミキリの県内における被害地点が大きく広がった。センターでは被害防止に関する研修会等を開催し、普及啓発を図るとともに、県民参加による、全県を対象とした「クビアカツヤカミキリ発見大調査」を6月から実施した。その結果、被害が確認されなかった地点も含め県内20市町の250か所から報告があり、そのうち、8市の128か所から被害(成虫のみの確認を含む)の報告が得られた。また、11月にはセンターの活動を広く県民に周知し、県内の民間企業等と連携した取組を進めるため、これまでの研究成果や、蓄積・保有している技術・情報などを冊子としてまとめた「埼玉県環境科学国際センター研究シーズ集」を初めて発行し、広く配布を行った。12月には全国に先駆け、センターに「地域気候変動適応センター」が設置された。地域気候変動適応センターでは、埼玉県における、気候変動実態やその影響、将来予測など、適応策に関する情報の収集と整備、分析を行い、適応策に関するきめ細かい情報を県内自治体や事業者、県民に提供し、今後、地域の適応策に貢献していく。このように、センターでは経常的な調査活動・研究活動だけでなく、多様化する県内の環境問題の解決に向けて時代に即した業務を今後とも進めていく所存である。

本報は、印刷原稿の作成までをセンター全職員の参加により行ったものであるが、編集方針・内容の決定、具体的作業に当たっては、下記の編集委員会がその任を負った。

令和元年9月

編 集 委 員 一 同

〈 編 集 委 員 会 〉

松本利恵(研究推進室長)	嶋田知英(研究企画室長)
田口典義(事務局)	横塚敏之(研究企画室)
渡辺洋一(研究推進室)	茂木 守(研究推進室)
米倉哲志(自然環境担当)	長森正尚(資源循環・廃棄物担当)
蓑毛康太郎(化学物質・環境放射能担当)	田中仁志(水環境担当)
八戸昭一(土壌・地下水・地盤担当)	白石英孝(土壌・地下水・地盤担当)

埼玉県環境科学国際センター報

第19号 平成30年度
令和元年9月30日発行

発行：埼玉県環境科学国際センター